

なおこの作品は山形屋工作所のオリジナル製

品として生産にかかる予定である。

〔デザイン研究 2 編〕

I. 収納用具のデザイン研究（シリーズNo.1）

II. 木製特産品の意匠研究と実用化

研究員 田 原 健 次

●収納用具のデザイン研究

1. 目 的

- 機能性を主体とするコーナー壁面用具の開発。
- 資材の効率的利用と、これに伴う簡易構造体の研究

2. 概 要

本体は実験的デザイン研究試作品であり本来の一般的研究様式とされる製品化に重点を置いた開発要領によるものではない。

基本的なこととして、異った角度からのデザイン思考（既成概念にとらわれない新しい構造体など）と、対業界用の示唆的な指導作品という2点に主力を置き開発に取り組んだものである。

○研究過程

機能的には、コーナーにおいて必要とする左右、2面での使用とその展開性にポイントを置き、互つ、資材の効率的利用も、考慮した

ものである。作品の性質上、軽使用具としての機能性を持つため、この面の構造体の更設計を含めて併考開発したものである。

3. 考察及び成果

実験的試作品のため通常試作品と同列に評価は出来ないと思うが、デザイン研究開発の側面として、この種作業の必要性は大きく、又、公的機関では今後益々求められる方向だと考える。

展示会及び通常展示を通じて、多種の意見に接すると、特に業界からの反響には、所期の目的とした諸件に合致したものが多く今後に一層の必要性が認知されたと思うので、来年度には、これをベースに、もっと気軽に住空間を利用出来るような具体的作品としてシリーズ研究に目処をつけたい。

●木製特産品の意匠研究と実用化

1. 目 的

下記5項目の目的を条件に企業ベースで実用化に取り組んだものである。

○地場企業の技術レベルによる新商品化。

○良心的商品開発。

○県内産材の活用（屋久杉等）

- 商品イメージ研究（上着性，装飾性等）
- 以上4点による波及効果の期待

2. 概 要

本県木製特産品の実態は良心的商品開発が全般には適正になされず，モラル上に疑点のあるものが多く，又，商品に説得性のない国籍不明なるものも多種みられるのが実情である。これらの是正には，我々の研究を事実で逐一，気永く提示して改善を図らねばならぬ問題である。

これは観光立県としても側面からの態勢強化に結び付くものであり，これらに鑑み市場調査を繰り返し初年度として，数種の商品開発を行ったものである。

3. 考察及び成果

商品化にあたっては，我々の立場を十分理解してもらえた企業を通じて実用化を進めたものである。

商品完成にあたって更度の市場調査，問屋小売店など，最終的な意見調整を行い品質チェックの後，市場で現実的評価を見守ったが商品の動向からみて所期の目的が相当程度条件化されたものと受け取れる。

なお，痛感させられた件は，この種商品開発には意匠研究段階から販売に至るまで一定期間，一環事業として指導統行の必要があると思われたことである。

これらは毎年少品種づゝでも取り上げて地道に継続研究指導を行えば，その波及効果は計り知れぬ程大きなものがあると思わるので，今後ともシリーズ研究としたい。

樹脂注入による材質改良研究（第11報）

算盤枠素材の樹脂注入試験（その2）

主任研究員 永 吉 忠 之
山 田 式 典
研究員 遠 矢 良 太 郎

1. 目 的

企業化された場合の作業能率促進の手段として，合成樹脂を注入した試料を更に，常態で樹脂中に長時間浸漬することによって，浸漬時間が含脂率にどのような影響を及ぼすかを検討することと強化木の作成。

2. 概 要

算盤枠実物大試料を用い，加圧処理時間2

条件，浸漬処理時間3条件にて，樹脂注入処理後，加熱圧縮した算盤枠用強化木を作成しそれぞれの条件における含脂率等との関係について資料分析を行った。

3. 成 果

これまでの研究成果をもとに，企業化が計画されているが，今回の試験においては，実際の場において大いに参考となる資料を得る